

(様式第10)

弘大病経第231号  
令和6年10月1日

厚生労働大臣 殿 開設者名 国立大学法人弘前大学  
学長 福田 眞作

弘前大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
氏名	国立大学法人弘前大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

弘前大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地
電話( 0172 ) 33 - 5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
5神経内科:脳神経内科にて診療を提供 8代謝内科:糖尿病・代謝内科にて診療を提供 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科:小児科、皮膚科及び耳鼻いんこう科・頭頸部外科にて診療を提供 11リウマチ科:整形外科及び内科にて診療を提供							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
7内分泌外科:乳腺外科及び外科にて診療を提供							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍内科	2	糖尿病・代謝内科	3	形成外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	
35	4			597	636	(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	242	153	362.9	看護補助者	102	診療エックス線技師	0	
歯科医師	10	5	14.1	理学療法士	15	臨床 検査	臨床検査技師	45
薬剤師	32	0	32.0	作業療法士	7		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0.0	視能訓練士	4		その他	0
助産師	23	0	23.0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	625	36	651.0	臨床工学士	25	医療社会事業従事者	6	
准看護師	0	0	0.0	栄養士	2	その他の技術員	17	
歯科衛生士	0	3	2.3	歯科技工士	1	事務職員	169	
管理栄養士	10	0	10.0	診療放射線技師	43	その他の職員	17	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	48	眼科専門医	6
外科専門医	31	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	7	放射線科専門医	7
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	11
産婦人科専門医	14	救急科専門医	3
		合計	196

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 袴田 健一 ) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

2020.4.1 ~ 2023.3.31	医療安全管理委員会委員長(医療安全管理責任者)
2023.4.1 ~ 現在	医療安全管理委員会委員(病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	428.5 人	10.3 人	438.8 人
1日当たり平均外来患者数	1569 人	49.3 人	1618.3 人
1日当たり平均調剤数	1995.8		剤
必要医師数	133		人
必要歯科医師数	3		人
必要薬剤師数	25		人
必要(准)看護師数	275		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	560.2 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	26 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	67.8	m <sup>2</sup>	病床数	5 床
	[移動式の場合]	台数	0	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	175			m <sup>2</sup>
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	300 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	免疫発光測定装置・電気化学発光測定装置 等		
細菌検査室	117 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット・高圧蒸気滅菌装置・テーブルトップ遠心機 等		
病理検査室	148 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置・検体前処理装置 等		
病理解剖室	66 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ホルマリン希釈混合装置・電動解剖鋸 等		
研究室	10,356 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	遺伝子発現・薬剤分析システム・パーソナル次世代シーケンサー 等		
講義室	274 m <sup>2</sup>	鉄骨	室数	1 室	収容定員	205 人
図書室	1,341 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3 室	蔵書数	153,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	107	%	逆紹介率	81.9	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,555 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,810 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,270 人		
	D: 初診の患者の数		11,983 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	無	1
板橋 幸弘	つがる西北五広域連合鰯ヶ沢病 院 院長		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	無	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座 教授		法律に関する識見を有する者	無	1
吉澤 篤	前弘前大学理事		医療を受ける者	無	2
田坂 定智	弘前大学大学院医学研究科呼吸 器内科学講座 教授 (副病院長)		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	有	1
櫻庭 裕丈	弘前大学大学院医学研究科消化 器血液免疫内科学講座 教授 (病院長補佐)		医療に係る安全管理に関する 識見を有する者	有	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
附属病院ホームページに掲載	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	61	自己免疫性溶血性貧血	1
2	筋萎縮性側索硬化症	15	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
3	脊髄性筋萎縮症	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	29
4	原発性側索硬化症	3	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
5	進行性核上性麻痺	6	65	原発性免疫不全症候群	3
6	パーキンソン病	122	66	IgA腎症	34
7	大脳皮質基底核変性症	4	67	多発性嚢胞腎	29
8	ハンチントン病	0	68	黄色靱帯骨化症	13
9	神経有棘赤血球症	0	69	後縦靱帯骨化症	88
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	70	広範脊柱管狭窄症	1
11	重症筋無力症	51	71	特発性大腿骨頭壊死症	53
12	先天性筋無力症候群	0	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	61	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
15	封入体筋炎	2	75	クッシング病	5
16	クドウ・深瀬症候群	0	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
17	多系統萎縮症	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	47	78	下垂体前葉機能低下症	94
19	ライゾーム病	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
20	副腎白質ジストロフィー	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
21	ミトコンドリア病	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
22	もやもや病	22	82	先天性副腎低形成症	0
23	プリオン病	2	83	アジソン病	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	84	サルコイドーシス	74
25	進行性多巣性白質脳症	0	85	特発性間質性肺炎	33
26	HTLV-1関連脊髄症	0	86	肺動脈性肺高血圧症	12
27	特発性基底核石灰化症	1	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
28	全身性アミロイドーシス	20	88	慢性血栓性肺高血圧症	12
29	ウルリッヒ病	0	89	リンパ管筋腫症	3
30	遠位型ミオパチー	2	90	網膜色素変性症	33
31	ベスレムミオパチー	0	91	バッド・キアリ症候群	3
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	16
34	神経線維腫症	12	94	原発性硬化性胆管炎	5
35	天疱瘡	12	95	自己免疫性肝炎	9
36	表皮水疱症	6	96	クローン病	133
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	97	潰瘍性大腸炎	252
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	98	好酸球性消化管疾患	1
39	中毒性表皮壊死症	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
40	高動脈炎	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
41	巨細胞性動脈炎	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
42	結節性多発動脈炎	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	22	103	CFC症候群	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	104	コステロ症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	20	105	チャージ症候群	0
46	悪性関節リウマチ	10	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
47	パージャー病	0	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	10
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	222	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	68	110	フラウ症候群	0
51	全身性強皮症	56	111	先天性ミオパチー	0
52	混合性結合組織病	32	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
53	シェーグレン症候群	30	113	筋ジストロフィー	3
54	成人スチル病	19	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
56	ペーチェット病	83	116	アトピー性脊髄炎	0
57	特発性拡張型心筋症	24	117	脊髄空洞症	2
58	肥大型心筋症	8	118	脊髄髄膜瘤	0
59	拘束型心筋症	0	119	アイザックス症候群	0
60	再生不良性貧血	15	120	遺伝性ジストニア	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
121	神経フェリチン症	0	181	クルーゾン症候群	0
122	脳表へモジリン沈着症	1	182	アペール症候群	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	183	ファイファー症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
126	ペリー症候群	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	187	歌舞伎症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	188	多脾症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	189	無脾症候群	1
130	先天性無痛無汗症	0	190	鰓耳腎症候群	0
131	アレキサンダー病	0	191	ウェルナー症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	192	コケイン症候群	0
133	メビウス症候群	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	194	ソトス症候群	0
135	アICALディ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
136	片側巨脳症	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	197	1p36欠失症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	198	4p欠失症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	199	5p欠失症候群	0
140	ドラベ症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	201	アンジェルマン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	202	スミス・マガニス症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
145	ウエスト症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
146	大田原症候群	0	206	脆弱X症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	207	総動脈幹遺残症	1
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	208	修正大血管転位症	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	209	完全大血管転位症	3
150	環状20番染色体症候群	0	210	単心室症	5
151	ラスムッセン脳炎	0	211	左心低形成症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	2
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	215	ファロー四徴症	7
156	レット症候群	0	216	両大血管右室起始症	3
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	217	エプスタイン病	0
158	結節性硬化症	2	218	アルポート症候群	0
159	色素性乾皮症	2	219	ギャロウェイ・モフト症候群	0
160	先天性魚鱗癬	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	2
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7	222	一次性ネフロゼ症候群	42
163	特発性後天性全身性無汗症	3	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
164	眼皮膚白皮症	0	224	紫斑病性腎炎	3
165	肥厚性皮膚骨膜炎	1	225	先天性腎性尿崩症	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0
167	マルファン症候群	2	227	オスラー病	9
168	エーラス・ダンロス症候群	1	228	閉塞性細気管支炎	0
169	メンケス病	0	229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	230	肺胞低換気症候群	0
171	ウィルソン病	6	231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	1
172	低ホスファターゼ症	0	232	カーニー複合	0
173	VATER症候群	0	233	ウォルフラム症候群	0
174	那須・ハコラ病	0	234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
175	ウィーバー症候群	0	235	副甲状腺機能低下症	1
176	コフィン・ローリー症候群	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
179	ウィリアムズ症候群	0	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
180	ATR-X症候群	0	240	フェニルケトン尿症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
241	高チロシン血症1型	0	301	黄斑ジストロフィー	1
242	高チロシン血症2型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
243	高チロシン血症3型	0	303	アッシュャー症候群	0
244	メーブルシロップ尿症	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
245	プロピオン酸血症	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
246	メチルマロン酸血症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	89
247	イソ吉草酸血症	0	307	カナバン病	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	308	進行性白質脳症	0
249	グルタル酸血症1型	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
250	グルタル酸血症2型	0	310	先天異常症候群	0
251	尿素サイクル異常症	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
254	ポルフィリン症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
256	筋型糖原病	0	316	カルニチン回路異常症	0
257	肝型糖原病	0	317	三頭酵素欠損症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	318	シトリン欠損症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
260	シトステロール血症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
261	タンジール病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
264	無βリポタンパク血症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
265	脂肪萎縮症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
266	家族性地中海熱	7	326	大理石骨病	0
267	高IgD症候群	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
268	中條・西村症候群	0	328	前眼部形成異常	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	329	無虹彩症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
271	強直性脊椎炎	5	331	特発性多中心性キャッスルマン病	7
272	進行性骨化性線維異形成症	1	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
274	骨形成不全症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	335	ネフロン癆	0
276	軟骨無形成症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0	337	ホモシチン尿症	2
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0	339		
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1	340		
281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	0	341		
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	342		
283	後天性赤芽球癆	4	343		
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	344		
285	ファンconi貧血	0	345		
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	346		
287	エプスタイン症候群	0	347		
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3	348		
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	349		
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	350		
291	ヒルシスブルン病(全結腸型又は小腸型)	0	351		
292	総排泄腔外反症	1	352		
293	総排泄腔遺残	1	353		
294	先天性横隔膜ヘルニア	0	354		
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	355		
296	胆道閉鎖症	5	356		
297	アラジール症候群	0	357		
298	遺伝性膝炎	0	358		
299	嚢胞性線維症	0	359		
300	IgG4関連疾患	8	360		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	128
合計患者数(人)	2,327

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算2
・ 歯科外来診療医療安全対策加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 歯科外来診療感染対策加算3	・ データ提出加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 入退院支援加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 救急医療管理加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 救命救急入院料4
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 特定集中治療室管理料1
・ 急性期看護補助体制加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料1
・ 看護職員夜間配置加算	・ 新生児特定集中治療室管理料2
・ 看護補助加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・
・ 放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染対策向上加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・がん治療連携計画策定料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ハ	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん患者指導管理料ニ	・歯科治療時医療管理料
・外来緩和ケア管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・小児運動器疾患指導管理料	・染色体検査の注2に規定する基準
・婦人科特定疾患治療管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・腎代替療法指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・一般不妊治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・生殖補助医療管理料1	・先天性代謝異常症検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・二次性骨折予防継続管理料3	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・下肢創傷処置管理料	・検体検査管理加算(IV)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝カウンセリング加算
・外来腫瘍化学療法診療料1	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・連携充実加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児心エコー法	・頭部MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・外来化学療法加算1
・長期継続頭蓋内脳波検査	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・黄斑局所網膜電図	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内服・点滴誘発試験	・通院・在宅精神療法の注4に規定する児童思春期精神科専門管理加算
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法1
・精密触覚機能検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・画像診断管理加算1	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算4	・人工腎臓
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・CT撮影及びMRI撮影	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・冠動脈CT撮影加算	・ストーマ合併症加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
・外傷全身CT加算	・手術用顕微鏡加算
・心臓MRI撮影加算	・口腔粘膜処置
・乳房MRI撮影加算	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科技工士加算1及び2	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 組織拡張期による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・ 顎関節人工関節全置換術(歯科)
・ 骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 椎間板内酵素注入療法	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 緊急穿頭血種除去術	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ 気管支バルブ留置術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 角結膜悪性腫瘍切除手術	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・ 羊膜移植術	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・ 内視鏡下筋層切開術
・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 網膜再建術	
・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	
・ 人工中耳植込術	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	・ 胸腔鏡下弁置換術
	・ 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的僧帽弁クリップ術</li> <li>不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)</li> <li>経皮的中隔心筋焼灼術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)</li> <li>両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)</li> <li>胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下肝切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体部分肝移植術</li> <li>腹腔鏡下膵腫瘍摘出術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術</li> <li>腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵中央切除術</li> <li>腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大動脈バルーンパンピング法(IABP法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>補助人工心臓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的下肢動脈形成術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法</li> <li>腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> <li>同種死体腎移植術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡的逆流防止粘膜切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体腎移植術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>膀胱水压拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・放射線治療専任加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・外来放射線治療加算
・精巣温存手術	・遠隔放射線治療計画加算
・精巣内精子採取術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・体外式膜型人工肺管理料	・定位放射線治療
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)	・画像誘導密封小線源治療加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・病理診断管理加算2
・輸血管理料 I	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・自己生体組織接着剤作成術	
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	
・同種クリオプレシピテート作製術	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・口腔粘膜血管腫凝固術	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前立腺針生検法 (MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・消化器(内科・外科)病理合同カンファレンス週1回 ・泌尿器・病理合同カンファレンス週1回 ・細胞診カンファレンス月1回 ・脳神経外科・病理合同カンファレンス月1～2回 ・婦人科・病理合同カンファレンス月1回 ・呼吸器・病理合同カンファレンス週1回 ・リンパ腫カンファレンス月1回 ・その他不定期の検討会月数回程度	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	17
	剖検率(%)	8.3

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ダウン症候群に伴う急性巨核芽球性白血病発症の分子機構の解明と分子標的療法の開発	伊藤悦朗	医学研究科地域医療学講座	3,100,000円	補委 日本学術振興会
深層学習法による高齢者術後うつ病の術前予測と発症機序・予防に関する基礎的研究	廣田和美	医学研究科麻酔科学講座	2,700,000円	補委 日本学術振興会
sacubitrilatとSLC01B1遺伝子多型がバルサルタンの薬物動態へ与える影響	相内尚也	医学部附属病院薬剤部	460,000円	補委 日本学術振興会
CYP3A5遺伝子多型情報に基づくビンクリスチン個別化投与法の構築	齋藤圭悟	医学部附属病院薬剤部	460,000円	補委 日本学術振興会
TGF-betaシグナルに着目した栄養障害型表皮水疱症の線維化メカニズム	赤坂英二郎	医学部附属病院皮膚科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
ヒアルロン酸分解酵素による前立腺癌の腫瘍免疫逃避機構の解明	飛澤悠葵	医学研究科泌尿器科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
薬物応答性遺伝子多型に基づき新規腎性貧血治療薬の投与量個体差要因を説明できるか?	新岡大典	医学研究科薬剤学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
線条体神経細胞の異常可塑性が遅発性ジスキネジアの原因か?	富山誠彦	医学研究科脳神経内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
好中球エラスターゼ阻害剤による放射線肺臓炎予防効果の解明	畑山佳臣	医学部附属病院放射線部	1,300,000円	補委 日本学術振興会
Diamond-Blackfan貧血に合併する悪性腫瘍発症機構の解明	神尾卓哉	医学部附属病院小児科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
赤血球分化における転写因子IRX1の機能の解明	佐藤知彦	医学部附属病院小児科	1,100,000円	補委 日本学術振興会
ダウン症のTAMにおけるGATA1変異タイプと巨核球分化・白血病進展との関連	照井君典	医学研究科小児科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)における骨髄病変の分子機構の解明	工藤耕	医学部附属病院小児科学講座	1,500,000円	補委 日本学術振興会
新規水疱性類天疱瘡モデルマウスを用いた抗BP230自己抗体の解析	澤村大輔	医学研究科皮膚科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
遺伝性ポルフィリン症におけるヘム生合成に関する新規代謝経路の解明	中野創	医学研究科皮膚科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
レチノイン酸によるマクロファージ・パイロトシス制御機構	平賀寛人	医学研究科消化器血液免疫内科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
プロオピオメラノコルチン遺伝子の転写抑制メカニズムの解明	高安忍	医学研究科内分泌代謝内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
新規ゲノム機能解析法による微小腫瘍検出法の開発	袴田健一	医学研究科消化器外科学講座	300,000円	補委 日本学術振興会
血管内皮増殖因子受容体VEGFR2の大動脈弁異所性石灰化における役割と機序の解明	于在強	医学研究科胸部心臓血管外科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
マイクロバイオーム解析による上気道難治性アレルギー性・好酸球性炎症の病態解明	松原篤	医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	400,000円	補委 日本学術振興会
生活習慣病の予防法確立を目指した経年的口腔内細菌叢変化と生活習慣病の関係解明	小林恒	医学研究科歯科口腔外科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
中央一括審査時代における「質の高い倫理委員会」モデルケースの検討	栗林航	医学研究科医療倫理学講座	500,000円	補委 日本学術振興会
ビッグデータを用いた口腔内・腸内細菌叢における胃酸分泌能の新たな役割の解明	珍田大輔	医学部附属病院光学医療診療部	500,000円	補委 日本学術振興会
大規模調査による非アルコール性脂肪性肝疾患の病態とPAI-1との関連の解明	三上健一郎	医学研究科消化器血液内科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
生活習慣因子との相互関係を考慮した既知生活習慣病感受性遺伝子因子の臨床応用	大門真	医学研究科内分泌代謝内科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会

小計25件

オンライン服薬指導に対応できる人材育成のための教育ツールの開発	工藤正純	医学部附属病院臨床試験管理センター	1,100,000円	補委	日本学術振興会
パーキンソン病の早期診断における脳定量MRIミエリンマップに関する研究	藤田大真	医学部附属病院放射線診断科	600,000円	補委	日本学術振興会
酪酸デリバリーカプセル併用と酪酸吸収促進効果による炎症性腸疾患新規治療	櫻庭裕丈	医学研究科消化器血液免疫内科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
糖尿病に対する消化酵素補充療法の適正化に呼気中水素濃度測定は有用であるか	柳町幸	医学研究科むつ下北地域医療学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
肺高血圧症における新たな機序の解明；エンドセリン受容体におけるβアレスチンの役割	花田賢二	医学部附属病院循環器内科、腎臓内科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
冠攣縮性狭心症の成因における血管平滑筋収縮の情報伝達系の役割の解明	渋谷修司	医学研究科心臓病態先進治療学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
カルシウム感受性亢進に着目した冠攣縮性狭心症の新規病態の解明と治療法の確立	富田泰史	医学研究科循環器腎臓内科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
気管支拡張症の基礎疾患と形態学的特徴および下気道細菌叢との関連	田坂定智	医学研究科呼吸器内科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
組織透明化法による遠位胆管癌の神経周囲浸潤機構の解明	小笠原宏一	医学研究科消化器外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
壁外進展様式に着目した術前治療抵抗性直腸癌の病的機構解明	久保田隼介	医学研究科消化器外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
肉腫細胞をターゲットとした蛍光L-グルコースによる新規診断・治療法の開発	大鹿周佐	医学部附属病院リハビリテーション科	1,300,000円	補委	日本学術振興会
CD14陽性樹状形細胞による関節リウマチ病態形成の形態学的解明	黒瀬理恵	医学研究科整形外科科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
関節内組織再生誘導メカニズムの解明と変形性膝関節症の新規組織修復法の開発	石橋恭之	医学研究科整形外科科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
慢性期脊髄損傷に対する脂肪・骨髄由来Muse細胞による神経再生治療法の確立	熊谷玄太郎	医学部附属病院整形外科	900,000円	補委	日本学術振興会
一般地域住民に対する大規模疫学調査による加齢性難聴の遺伝的素因の解明	佐々木亮	医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
トレハロースによる緑内障チューブシャント手術後の結膜瘢痕化抑制	工藤孝志	医学部附属病院眼科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
NOTCH2NL2 遺伝子上のGGC リピート配列延長の網膜変性への関与	上野真治	医学研究科眼科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
人工知能による予後予測精度の高い早期変形性膝関節症診断基準作成にむけた疫学研究	佐々木英嗣	医学研究科むつ下北地域医療学講座	200,000円	補委	日本学術振興会
脳内ネットワークに着目した脊髄損傷慢性期ロボットリハビリテーションの効果発現機序	津田英一	医学研究科リハビリテーション医学講座	300,000円	補委	日本学術振興会
特発性脊柱側弯症に対する保護者評価を活用した新たなスクリーニングツールの開発	和田簡一郎	医学部附属病院整形外科科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
大豆イソフラボン代謝産物エクオールによる2型糖尿病の新たな病態解明と治療法の開発	村上宏	医学研究科内分泌代謝内科学講座	300,000円	補委	日本学術振興会
連合学習による生体分子ネットワーク推定法の研究	玉田嘉紀	医学研究科医療データ解析学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
Liquid biopsy法による新規副腎マーカーの開発	藤田尚紀	医学研究科むつ下北地域医療学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
エクオールと生活習慣病との関連	大石舞香	医学研究科産科婦人科	700,000円	補委	日本学術振興会
IGFBPsによる骨微小環境調節機構の解明と新規骨吸収性疾患治療への応用	伊藤良平	医学部附属病院歯科口腔外科	1,200,000円	補委	日本学術振興会

小計25件

電子レセプト情報から傷病名を明らかにする確率計算式の開発	田中里奈	医学研究科医学医療情報学講座	450,000円	補委	日本学術振興会
アレルギー性気道炎症に対するG蛋白共役型エストロゲン受容体を介した抑制作用の機序	糸賀正道	医学研究科臨床検査医学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
腹壁末梢神経ブロックは腹腔鏡手術の術野状態を改善しうるか？	野口智子	医学研究科麻酔科学講座	200,000円	補委	日本学術振興会
脳波解析による術後譫妄予測アルゴリズムの確立	木下裕貴	医学部附属病院集中治療部	1,600,000円	補委	日本学術振興会
糖代謝イメージングを応用した治療抵抗性肉腫早期診断法の開発	小川哲也	医学研究科整形外科科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
膀胱癌浸潤転移に関わる新規ヒアルロニダーゼTMEM2の機能解明	米山美穂子	医学研究科泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
イムノグロブリン糖鎖変異による尿路上皮癌診断マーカーの開発	田中壽和	医学研究科泌尿器科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
PD1/PDL1の糖鎖分子を用いた免疫療法効果予測バイオマーカーの開発	堀口裕貴	医学研究科泌尿器科学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
アレルギー性鼻炎の新規感作抑制や発症予防に関する腸内・口腔細菌叢の探究	野村彩美	医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
網膜色素変性患者の黄斑部視細胞障害診断法の開発	原藍子	医学研究科地域医療学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
エクオールが女性アスリートの3主徴を有する長距離走選手の骨代謝に与える影響の検討	藤田有紀	医学部附属病院整形外科	800,000円	補委	日本学術振興会
膝ACL再建術後に再断裂予防リハを実施した者の片脚着地動作の経時的な変化の解明	大見頼一	医学研究科リハビリテーション医学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
がん患者への臨床薬理学的アプローチによる経口第Xa因子阻害薬新規個別化療法の開発	中川潤一	医学部附属病院薬剤部	800,000円	補委	日本学術振興会
COVID-19が子どものメンタルヘルス及び言語・社会性の発達に与える影響	坂本由唯	医学部附属病院神経科精神科	1,900,000円	補委	日本学術振興会
MAC感染症におけるエクソソームの役割についての研究	牧口友紀	医学部附属病院呼吸器内科、感染症科	1,400,000円	補委	日本学術振興会
多発性骨髄腫での治療効果予測バイオマーカー探索：血清cfDNAの経時的解析	立田卓登	医学部附属病院消化器内科、血液内科、免疫内科	800,000円	補委	日本学術振興会
ウロコルチン遺伝子ターゲティングマウスを用いた脳内ストレス防御反応の解明	村澤真吾	医学研究科内分泌代謝内科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
ベンゾジアゼピン系抗不安薬アルプラゾラムを用いた偽性クッシング症候群の診断	浅利ゆう子	医学部附属病院内分泌内科、糖尿病代謝内科	800,000円	補委	日本学術振興会
膵臓癌・胆道癌オルガノイドモデルを用いた癌進展機構解明と新規治療開発	鶴田覚	医学研究科高度救命救急センター	1,400,000円	補委	日本学術振興会
がん転移メカニズムに着目したヒト肝胆道系3Dリンパ管システムマップの解明	鍵谷卓司	医学研究科消化器外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
オレキシン神経系が術後せん妄、術後認知機能障害に与える影響	竹川大貴	医学部附属病院麻酔科	1,200,000円	補委	日本学術振興会
急性期脊髄損傷における自然回復を予測するための新しいバイオマーカーの確立	新戸部陽士郎	医学部附属病院整形外科科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
メタボロームコホート研究による変形性股関節症の発症・進行因子の探索	大石和生	医学部附属病院整形外科	100,000円	補委	日本学術振興会
免疫細胞のテロメア長を用いた癌化学免疫療法の効果予測バイオマーカーの開発	細越正吾	医学研究科泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
卵巣明細胞癌に対するCarbonyl reductase 1遺伝子治療の有効性	大澤有姫	医学研究科産科婦人科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会

小計25件

モデル動物による好酸性中耳炎の難治化と内耳障害の研究	工藤直美	医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科	500,000円	補委	日本学術振興会
難聴関連遺伝子変異の有病率および保因者頻度の疫学調査	後藤真一	医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
ビッグデータを活用した口腔細菌叢比較による骨粗鬆症リスク評価の新展開	田村好弘	医学研究科歯科口腔外科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
へき地医師に対する整形外科診療教育：対面教育とICTを用いた遠隔教育の比較検証	亀元崇	医学部附属病院救急災害・総合診療医学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
ビッグデータを用いた食物繊維と腸内環境の関係解明：メタゲノム、メタボローム解析	佐藤諭	医学研究科消化器血液免疫内科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
Long Covidの発生病因因子と血清3ヒドロキシ酪酸等ストレスマーカーとの関連について	齋藤紀先	医学研究科臨床検査医学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
加齢によるシナプス可塑性の変化をパーキンソン病モデル動物を用いて調べる	西島春生	医学部附属病院脳神経内科	1,000,000円	補委	日本学術振興会
血管経由でがん組織を低侵襲的に採取する生検デバイスの開発	対馬史泰	医学部附属病院放射線診断科	1,800,000円	補委	日本学術振興会
ダウン症関連白血病における長鎖非コードRNA PVT1の機能解明	金崎里香	医学研究科小児科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
ダウン症関連白血病における転写因子GATA1スプライシング異常の影響と作用機構	土岐力	医学研究科小児科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
蓼藍の抗腸炎作用に寄与するIL-10産生細胞の解析とAhR非依存下での効果検討	菊池英純	医学研究科地域医療学講座	2,500,000円	補委	日本学術振興会
代謝関連脂肪性肝疾患 (MAFLD) の病態解明：大規模・多角的な横断的・縦断的研究	飯野勢	医学部附属病院消化器内科、血液内科、免疫内科	2,200,000円	補委	日本学術振興会
高周波通電焼灼効果に影響を及ぼす因子に関する研究	木村正臣	医学研究科不整脈先進治療学講座	2,400,000円	補委	日本学術振興会
BP230を標的とする水疱性類天疱瘡の発症機序ならびにその誘発因子の解明	松崎康司	医学部附属病院皮膚科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
クッシング病におけるACTH自律産生と細胞増殖に関わる因子の解明	蔭山和則	医学研究科内分泌代謝内科学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
遺伝子座特異的ChIP法を用いたMYCN増幅神経芽腫MYCN遺伝子の転写制御機構の解明	藤田博陽	医学研究科消化器外科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
リンパトランス法を用いた下部直腸肛門管広域リンパネットワークの全容解明	桑田大輔	医学部附属病院消化器外科学講座	2,200,000円	補委	日本学術振興会
放射線・化学療法抵抗性直腸癌オルガノイド解析による新規治療標的の開発	三浦卓也	医学部附属病院消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	1,100,000円	補委	日本学術振興会
集中治療における病態に応じた鎮静法の探求-内在的治癒能力と共同する方法を目指して	外崎充	医学部附属病院集中治療部	800,000円	補委	日本学術振興会
内側前頭前野-背側線条体神経回路はケタミンの抗うつ作用発現を制御するか	二階堂義和	医学研究科健康ライフサイエンス研究講座	800,000円	補委	日本学術振興会
びまん性特発性骨増殖症における疫学調査と血清biomarker探索	千葉紀之	医学部附属病院整形外科講座	700,000円	補委	日本学術振興会
再受傷予防を目指した膝前十字靭帯再建術後の神経筋コントロール機構の病態解明	木村由佳	医学研究科整形外科講座	900,000円	補委	日本学術振興会
蛍光L型グルコースによる腹腔内異型細胞の検出：胃癌腹膜播種の新規診断技術の開発	横山拓史	医学研究科消化器外科学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会
大動脈バルーンカテーテルの全自動化に向けた基礎技術の開発：熟練術者手技の再現	齊藤良明	医学研究科胸部心臓血管外科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるschlafen11の発現機構とバイオマーカーとしての有用性	村井康久	医学研究科消化器血液内科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会

小計25件

MR(複合現実)を利用した仮想人工心肺・エクモシミュレーターの研究開発	小渡亮介	医学部附属病院呼吸器外科、心臓血管外科	1,600,000円	補委	日本学術振興会
偽関節に対するM u s e細胞移植による再生医療法の確立	小野浩弥	医学研究科整形外科科学講座	1,700,000円	補委	日本学術振興会
網羅的糖鎖解析を用いた糖鎖腸内細菌叢の変化を表す免疫学的バイオマーカーの開発	沖田和貴	医学研究科泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
腫瘍特異的集積性を示すペプチド-DDSによる前立腺癌治療への応用	久保田優花	医学研究科泌尿器科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
上皮性・Th2型サイトカインからみた好酸球性中耳炎の病態解明と新規治療法の提案	三浦智也	医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	伊藤悦朗	医学研究科地域医療学講座	12,308,000円	補委	厚生労働省
がん登録を利用したがん検診の精度管理方法の検討のための研究	松坂方士	医学部附属病院臨床試験管理センター	3,135,000円	補委	厚生労働省
地域がん登録及び全国がん登録事業 R6.3.31	松坂方士	医学部附属病院臨床試験管理センター	5,595,566円	補委	青森県
小児および成人組織球症に対する晩期合併症阻止を目指した新規治療法と長期フォローアップの研究開発	工藤耕	医学部附属病院 臨床試験管理センター	4,000,000円	補委	国立成育医療研究センター
組織球症に続発する中枢神経変性症の診断・治療エビデンスの創出	工藤耕	医学部附属病院小児科	2,200,000円	補委	国立成育医療研究センター
アベルマブ・アキシチニブ併用療法の実臨床での有用性を評価する多機関共同・非介入・後ろ向き観察研究: J-DART2 (B9991052)	岡本哲平	医学部附属病院 臨床試験管理センター	726,000円	補委	ファイザー株式会社/イービーエス株式会社
治験実施計画書に基づく治験の実施及び管理	横山良仁	大学院医学研究科産科婦人科学講座	800,000円	補委	国立大学法人千葉大学
病的バリエントを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進	富山誠彦	大学院医学研究科脳神経内科学講座	1,500,000円	補委	国立大学法人信州大学

計113件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tachita T, Takahata T, Yamashita S, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	Newly diagnosed extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type, at the injected left arm after BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccination	Int J Hematol. 2023 Oct;118(4):503-507. doi: 10.1007/s12185-023-03607-w. Epub 2023 Apr 24.	Case report
2	Hiraga H, Chinda D, Maeda T, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	Vitamin A Promotes the Fusion of Autophagolysosomes and Prevents Excessive Inflammasome Activation in Dextran Sulfate Sodium-Induced Colitis	Int J Mol Sci. 2023 May 12;24(10):8684. doi: 10.3390/ijms24108684.	Original Article
3	Sato S, Iino C, Chinda D, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	Effect of Liver Fibrosis on Oral and Gut Microbiota in the Japanese General Population Determined by Evaluating the FibroScan-Aspartate Aminotransferase Score	Int J Mol Sci. 2023 Aug 30;24(17):13470. doi: 10.3390/ijms241713470.	Original Article
4	Fukutoku Y, Kikuchi H, Hoshi K, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	The new 222-nm far ultraviolet-C lowers bacterial contamination to endoscopists during esophagogastrroduodenoscopy	DEN Open. 2023 Sep 12;4(1):e292. doi: 10.1002/deo2.292. eCollection 2024 Apr.	Original Article
5	Chinda D, Shimoyama T, Fujiwara S, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	Assessment of the Physical Invasiveness of Peroral Endoscopic Myotomy during the Perioperative Period Based on Changes in Energy Metabolism	Metabolites. 2023 Aug 23;13(9):969. doi: 10.3390/metabo13090969.	Original Article
6	Sato S, Nakaji S, Sawada K, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	Association between reactive oxygen species production in neutrophils and liver fibrosis in the general population	J Clin Biochem Nutr. 2023 Nov;73(3):214-220. doi: 10.3164/jcbs.23-46. Epub 2023 Jul 25.	Original Article
7	Ogasawara K, Hiraga H, Sasaki Y, et al.	化器内科, 血液内科, 膠原病内	A Logistic Regression Model for Predicting the Risk of Subsequent Surgery among Patients with Newly Diagnosed Crohn's Disease Using a Brute Force Method	Diagnostics (Basel). 2023 Dec 3;13(23):3587. doi: 10.3390/diagnostics13233587.	Original Article
8	Sato S, Chinda D, Iino C, et al.	消化器内科, 血液内科, 膠原病内 病内科	A Cohort Study of the Influence of the 12-Component Modified Japanese Diet Index on Oral and Gut Microbiota in the Japanese General Population	Nutrients. 2024 Feb 13;16(4):524. doi: 10.3390/nu16040524.	Original Article
9	Kinjo T, Sasaki S, Kimura M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Great cardiac vein occlusion following radiofrequency catheter ablation: a late complication identified during cardiac device implantation	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023 Jun 21;24(7):e115. doi: 10.1093/ehjci/jead073.	Case report
10	Nakamura N, Osawa H, Nagawa D, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Relationship Between Cardiovascular Events and Serum Lipid and Plasma Fatty Acid Profile in Maintenance Hemodialysis Patients With Diabetic Mellitus	In Vivo. 2023 May-Jun;37(3):1182-1185. doi: 10.21873/invivo.13193.	Original Article
11	Itoh T, Ishida Y, Kimura M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Use of a QDOT MICRO catheter to identify a premature ventricular contraction origin in the right ventricular anterior papillary muscle in a repaired truncus arteriosus	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Nov;46(11):1337-1340. doi: 10.1111/pace.14750. Epub 2023 Jun 13.	Case report
12	Nakamura N, Nagawa D, Nakata M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Dietary Intake of Polyunsaturated Fatty Acids and Diabetic Nephropathy: Cohort Analysis of the Tsugaru Study	In Vivo. 2023 Jul-Aug;37(4):1890-1893. doi: 10.21873/invivo.13282.	Original Article
13	Nishizaki F, Shimbo M, Fukue N, et al.	循環器内科, 腎臓内科	National Survey Identifying the Factors Affecting the Career Development of Cardiologists in Japan	Circ J. 2023 Aug 25;87(9):1219-1228. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0063. Epub 2023 Jun 28.	Original Article
14	Itoh T, Kimura M, Nishizaki K, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Long RP Tachycardia With Simple vs Complex Bypass Tracts	JACC Clin Electrophysiol. 2023 Aug;9(8 Pt 1):1421-1427. doi: 10.1016/j.jacep.2023.01.033. Epub 2023 Mar 22.	Case report
15	Hanada K, Kinjo T, Yokoyama H, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Incidence, Predictors, and Outcome Associated With Ventricular Tachycardia or Fibrillation in Patients Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention for Acute Myocardial Infarction	Circ J. 2023 Sep 28. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0023. Online ahead of print.	Original Article
16	Nagawa D, Shimada M, Nakata M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Hypoxia-inducible Factor-1 $\alpha$ Suppresses the Innate Immune Response in Cultured Human Proximal Tubular Cells	In Vivo. 2023 Nov-Dec;37(6):2437-2446. doi: 10.21873/invivo.13349.	Original Article
17	Kinjo T, Kimura M, Kaname N, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Landiolol, an intravenous $\beta$ 1-selective blocker, is useful for dissociating a fusion of atrial activation via accessory pathway and atrioventricular node	J Arrhythm. 2023 Oct 3;39(6):937-946. doi: 10.1002/joa3.12934. eCollection 2023 Dec.	Original Article
18	Hanada K, Tomita H.	循環器内科, 腎臓内科	Prognostic Impact of Acute Myocardial Infarction-Related Ventricular Tachyarrhythmia in the Current Era - Reply	Circ J. 2024 Jan 25;88(2):262. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0836. Epub 2023 Dec 19.	Others
19	Itoh T, Nishizaki K, Kimura M, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Impact of Multilevel Atrioventricular Block on Verapamil-Sensitive Idiopathic Left Ventricular Tachycardia Alongside Typical Atrial Flutter	JACC Clin Electrophysiol. 2024 Mar;10(3):620-629. doi: 10.1016/j.jacep.2023.11.011. Epub 2024 Jan 10.	Case report
20	Kinjo T, Sasaki S, Horiuchi D, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Dual tachyarrhythmia: Ventricular fibrillation induced by atrial tachyarrhythmia in a patient with hypertrophic cardiomyopathy	J Arrhythm. 2023 Dec 22;40(1):180-183. doi: 10.1002/joa3.12980. eCollection 2024 Feb.	Case report
21	Saito K, Hagii J, Soma T, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Clinical Benefits of Oral Anticoagulants for Elderly Patients With Cardioembolic Stroke at High Bleeding Risk	In Vivo. 2024 Mar-Apr;38(2):725-733. doi: 10.21873/invivo.13494.	Original Article
22	Washima S, Hamaura S, Toyama Y, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Impact of factor Xa inhibitors on outcomes of atrial tachyarrhythmia recurrence following catheter ablation for atrial fibrillation: comparison with warfarin.	Hirosaki Med J 2024;74:87-98.	Original Article
23	Soma T, Kinjo T, Goto S, et al.	循環器内科, 腎臓内科	Complete remission of giant cell myocarditis by prednisolone monotherapy: A case with mild inflammation demonstrated by mismatch between T2-high intensity areas and late gadolinium enhancement.	J Cardiol Cases . 2024 Jan 15;29(4):182-185. doi: 10.1016/j.jccase.2023.12.007.	Case report
24	Matsuki K, Harada-Shiba M, Hori M, et al.	内分泌内科, 糖尿病代謝内科	Association between Familial Hypercholesterolemia and Serum Levels of Cholesterol Synthesis and Absorption Markers: The CACHE Study FH Analysis	J Atheroscler Thromb. 2023 Sep 1;30(9):1152-1164. doi: 10.5551/jat.63899. Epub 2023 Jan 7.	Original Article
25	Hamaura K, Murakami H, Tamura A, et al.	内分泌内科, 糖尿病代謝内科	Association between equal producers and type 2 diabetes mellitus among Japanese older adults	J Diabetes Investig. 2023 May;14(5):707-715. doi: 10.1111/jdi.13995. Epub 2023 Feb 28.	Original Article
26	Murasawa S, Kageyama K, Usutani M, et al.	内分泌内科, 糖尿病代謝内科	Biochemical Evaluation by Confirmatory Tests after Unilateral Adrenalectomy for Primary Aldosteronism	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2023 May 24;2023:5732812. doi: 10.1155/2023/5732812. eCollection 2023.	Original Article
27	Tasso M, Kageyama K, Iwasaki Y, et al.	内分泌内科, 糖尿病代謝内科	Growth differentiation factor-15 stimulates the synthesis of corticotropin-releasing factor in hypothalamic 4B cells	Peptides. 2023 Dec;170:171112. doi: 10.1016/j.peptides.2023.171112. Epub 2023 Oct 31.	Original Article
28	Kageyama K, Nishiyama M.	内分泌内科, 糖尿病代謝内科	Pituitary Tumors: Molecular Insights, Diagnosis, and Targeted Therapy	Cancers (Basel). 2023 Nov 22;15(23):5262. doi: 10.3390/cancers15235262.	Review

小計28件



29	Soma K, Kitagawa Y, Toki T, et al.	小児科	Early-onset Marfan syndrome with a novel missense mutation: A case report	J Cardiol Cases. 2023 Mar 10;27(6):283-286. doi: 10.1016/j.jccase.2023.02.019. eCollection 2023 Jun.	Case report
30	Tanaka H.	小児科	Long-term outcome of tacrolimus monotherapy in a patient with lupus nephritis: A 12-year observation	Lupus. 2023 Aug;32(9):1138-1140. doi: 10.1177/09612033231183503. Epub 2023 Jun 15.	Letter
31	Tokutake H, Hashimoto S, Fujita M, et al.	小児科	Be aware of severe juvenile chronic iridocyclitis without evidence of arthritis: Juvenile chronic iridocyclitis revisited	Int J Rheum Dis. 2024 Jan;27(1):e14913. doi: 10.1111/1756-185X.14913. Epub 2023 Sep 14.	Letter
32	Sato T, Yoshida K, Toki T, et al.	小児科	Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasms	Blood. 2024 Mar 21;blood.2023022247. doi: 10.1182/blood.2023022247. Online ahead of print.	Original Article
33	Tani K, Kimura D, Matsuo T, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Rescue computed tomography-guided drainage of a giant mediastinal mature teratoma causing airway obstruction prior to surgical resection: a case report	Surg Case Rep. 2023 Apr 13;9(1):59. doi: 10.1186/s40792-023-01638-3.	Case report
34	Kimura D, Yamamoto H, Endo S, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Postoperative cerebral infarction and arrhythmia after pulmonary lobectomy in Japan: a retrospective analysis of 77,060 cases in a national clinical database	Surg Today. 2023 Dec;53(12):1388-1395. doi: 10.1007/s00595-023-02691-z. Epub 2023 May 5.	Original Article
35	Kowatari R, Sasaki H, Murata K, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Establishment of prediction equations for subcutaneous tissue thickness in two representative intramuscular deltoid injections	Vaccine X. 2023 May 22;14:100316. doi: 10.1016/j.jvaxc.2023.100316. eCollection 2023 Aug.	Original Article
36	Imamura Y, Kowatari R, Kawamura T, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Delayed coronary artery stenosis: a rare complication of the left atrial clipping device	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2023 Nov 2;37(5):ivad183. doi: 10.1093/icvts/ivad183.	Case report
37	Sasaki H, Kowatari R, Kondo N, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Simple and secure thrombectomy without circulatory arrest for acute pulmonary embolism	J Cardiothorac Surg. 2024 Feb 8;19(1):74. doi: 10.1186/s13019-024-02535-y.	Original Article
38	Hanae Sasaki, Ryosuke Kowatari, Norihiro Kondo, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Intraoperative Internal Thoracic Artery Graft Flow Measurement Ipsilateral or Contralateral to the Arteriovenous Fistula in Hemodialysis Patients During Coronary Artery Bypass Graft Surgery	Journal of Coronary Artery Disease	Original Article
39	Tsubasa Matsuo, Daisuke Kimura, Kengo Tani, et al.	呼吸器外科, 心臓血管外科	Wallenberg syndrome in a patient after pulmonary resection	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases	Case report
40	Yamazaki K, Wakiya T, Ishido K, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	A case of serous cystic neoplasm with tumor growth acceleration leading to extrapancreatic invasion	Clin J Gastroenterol. 2023 Apr;16(2):289-296. doi: 10.1007/s12328-022-01746-x. Epub 2022 Dec 12.	Case report
41	Sato K, Kasajima H, Imaizumi K, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Visualization of Anorectal Lymphatic Flow Using Indocyanine Green Fluorescence Imaging: An Observational Study	Anticancer Res. 2023 Apr;43(4):1591-1598. doi: 10.21873/anticancer.16309.	Original Article
42	Ichinohe D, Muroya T, Akasaka H, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Skeletal muscle mass and quality before preoperative chemotherapy influence postoperative long-term outcomes in esophageal squamous cell carcinoma patients	World J Gastrointest Surg. 2023 Apr 27;15(4):621-633. doi: 10.4240/wjgs.v15.i4.621.	Original Article
43	Hara Y, Mizukami H, Yamazaki K, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Dual epigenetic changes in diabetes mellitus-associated pancreatic ductal adenocarcinoma correlate with downregulation of E-cadherin and worsened prognosis	J Pathol Clin Res. 2023 Sep;9(5):354-366. doi: 10.1002/cjp.326. Epub 2023 May 28.	Original Article
44	Morohashi H, Hakamada K, Kanno T, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Construction of redundant communications to enhance safety against communication interruptions during robotic remote surgery	Sci Rep. 2023 Jul 4;13(1):10831. doi: 10.1038/s41598-023-37730-9.	Others
45	Hakamada K.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Surgical education through integration of robotic telesurgical technology and AI	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Oct 31;7(6):846-847. doi: 10.1002/ags3.12751. eCollection 2023 Nov.	Others
46	Wakasa Y, Hakamada K, Morohashi H, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Ensuring communication redundancy and establishing a telementoring system for robotic telesurgery using multiple communication lines	J Robot Surg. 2024 Jan 11;18(1):9. doi: 10.1007/s11701-023-01792-8.	Others
47	Miura T, Morohashi H, Sakamoto Y, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Neoadjuvant S-1 and oxaliplatin plus bevacizumab therapy for high-risk locally advanced rectal cancer: A prospective multicenter phase II study	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Jul 20;8(1):71-79. doi: 10.1002/ags3.12720. eCollection 2024 Jan.	Original Article
48	Yamada T, Ishido K, Kimura N, et al.	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科	Follicular dendritic cell sarcoma arising from the lymph node of the pancreatic head: a case report with literature review	Clin J Gastroenterol. 2024 Mar 26. doi: 10.1007/s12328-024-01956-5. Online ahead of print.	Case report
49	Yamamoto Y, Saisu T, Harada Y, et al.	整形外科	Simultaneous open reduction and Z-shaped modified Salter osteotomy for developmental dysplasia of the hip: A report of two cases	J Orthop Sci. 2023 Sep;28(5):1184-1188. doi: 10.1016/j.jos.2020.12.024. Epub 2021 Feb 5.	Case report
50	Chiba D, Sasaki E, Ota S, et al.	整形外科	Lower bone mineral density can be a risk for an enlarging bone marrow lesion: A longitudinal cohort study of Japanese women without radiographic knee osteoarthritis	Mod Rheumatol. 2023 Aug 25;33(5):1044-1051. doi: 10.1093/mr/roac079.	Original Article
51	Chiba D, Yamamoto Y, Kimura Y, et al.	整形外科	Concomitant Lateral Meniscus Tear is Associated with Residual Rotatory Knee Instability 1 Year after Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: Case-cohort Study	J Knee Surg. 2023 Nov;36(13):1341-1348. doi: 10.1055/s-0042-1757594. Epub 2022 Dec 23.	Original Article
52	Sasaki E, Kimura Y, Sasaki S, et al.	整形外科	Reply to Letter to the editor on "Clinical outcomes of medial patellofemoral ligament reconstruction using FiberTape and knotless SwivelLock anchors"	Knee. 2023 Jun;42:411-412. doi: 10.1016/j.knee.2023.01.022. Epub 2023 Feb 11.	Letter
53	Sasaki E, Araki R, Sasaki T, et al.	整形外科	Association between bone marrow lesions and bone mineral density of the proximal tibia in end-stage osteoarthritic knees	Sci Rep. 2023 Apr 21;13(1):6516. doi: 10.1038/s41598-023-33251-7.	Original Article
54	Kumagai G, Wada K, Asari T, et al.	整形外科	Association of cervical atherosclerosis on Doppler ultrasonography and postoperative delirium in patients undergoing spinal surgery: a single-center, retrospective, observational study	Eur Spine J. 2023 Oct;32(10):3352-3359. doi: 10.1007/s00586-023-07823-0. Epub 2023 Jun 16.	Original Article
55	Kumagai G, Wada K, Asari T, et al.	整形外科	A delayed diagnostic case with complaints of severe lower back pain and sciatic nerve symptoms caused by osteoid osteoma of the sacrum: A case report	J Orthop Sci. 2023 Jul 28;S0949-2658(23)00201-4. doi: 10.1016/j.jos.2023.07.012. Online ahead of print.	Case report
56	Sasaki E, Kamitani T, Kinouchi S, et al.	整形外科	Incidence of anterior cruciate ligament injury patterns in Japanese judo players from a nationwide insurance database	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2023 Aug 22;33:6-12. doi: 10.1016/j.asmart.2023.08.011. eCollection 2023 Jul.	Original Article

小計28件

57	Tsukuda M, Kumagai G, Wada K, et al.	整形外科	Association between injury severity scores and clinical outcomes in patients with traumatic spinal injury in an aging Japanese society	Medicine (Baltimore). 2023 Sep 29;102(39):e35369. doi: 10.1097/MD.00000000000035369.	Original Article
58	Yajima K, Kim E, Tani K, et al.	整形外科	External dose measurements to investigate the body-size dependence of personal dosimeter responses in areas affected by the Fukushima Daiichi nuclear accident	Radiat Prot Dosimetry. 2023 Oct 11;199(15-16):2000-2004. doi: 10.1093/rpd/ncac274.	Original Article
59	Ishibashi HK, Sasaki E, Ishibashi K, et al.	整形外科	Greater medial proximal tibial slope is associated with bone marrow lesions in middle-aged women with early knee osteoarthritis	J Orthop Traumatol. 2023 Nov 28;24(1):60. doi: 10.1186/s10195-023-00739-x.	Original Article
60	Kumagai G, Wada K, Asari T, et al.	整形外科	Association between swallowing disorder and prevertebral hyperintensity on magnetic resonance imaging in patients after cervical cord injury without major fracture	Medicine (Baltimore). 2023 Dec 8;102(49):e36194. doi: 10.1097/MD.00000000000036194.	Original Article
61	Usami S, Naraoka T, Sasaki S, et al.	整形外科	Bilateral Sleeve Fracture of the Patella in a Healthy 11-Year-Old Male: A Case Report	Cureus. 2023 Dec 11;15(12):e50347. doi: 10.7759/cureus.50347. eCollection 2023 Dec.	Case report
62	Yamamoto T, Nitobe Y, Wada K, et al.	整形外科	A Case of Neurofibromatosis 1 with Myelopathy Due to Intracranial Rib Head and Kyphoscoliosis in an Adult	Spine Surg Relat Res. 2023 Sep 4;8(1):106-109. doi: 10.22603/ssr.2023-0087. eCollection 2024 Jan 27.	Case report
63	Mikami H, Akasaka E, Nakano H, et al.	皮膚科	Eruptive melanocytic nevi associated with encorafenib and cetuximab combination therapy	J Dermatol. 2023 May;50(5):e173-e174. doi: 10.1111/1346-8138.16701. Epub 2022 Dec 30.	Case report
64	Minakawa S, Matsuzaki Y, Yao S, et al.	皮膚科	Case report: A case of epidermolysis bullosa acquisita with IgG and IgM anti-basement membrane zone antibodies relapsed after COVID-19 mRNA vaccination	Front Med (Lausanne). 2023 May 30;10:1093827. doi: 10.3389/fmed.2023.1093827. eCollection 2023.	Case report
65	Yamashita A, Fukui T, Akasaka E, et al.	皮膚科	Acquired cutis laxa secondary to acute generalized exanthematous pustulosis: A case report and mini-review of literature	J Dermatol. 2024 Feb;51(2):287-293. doi: 10.1111/1346-8138.16860. Epub 2023 Jun 19.	Case report
66	Yoshikawa M, Rokunohe D, Takahashi M, et al.	皮膚科	Involvement of the genus <i>Corynebacterium</i> in the pathogenesis of pigmented intratarsal keratinous cyst	J Dermatol. 2023 Nov;50(11):1488-1492. doi: 10.1111/1346-8138.16871. Epub 2023 Jun 27.	Original Article
67	Akasaka E, Rokunohe D, Nakano H, et al.	皮膚科	A case of adult-onset localized recessive dystrophic epidermolysis bullosa, harboring the novel COL7A1 mutation p.G2754E and the previously reported mutation p.R1763	J Dermatol. 2024 Mar;51(3):e74-e76. doi: 10.1111/1346-8138.16993. Epub 2023 Oct 18.	Letter
68	Matsuzaki Y.	皮膚科	Professor Jouni Uitto (1943-2022)	J Dermatol. 2024 Mar;51(3):470. doi: 10.1111/1346-8138.16923. Epub 2024 Jan 31.	Others
69	Matsumoto M, Rokunohe D, Sasaki T, et al.	皮膚科	Upregulated expression of glucose transporter isoform 1 in invasive and metastatic extramammary Paget's disease	Exp Ther Med. 2024 Mar 26;27(5):228. doi: 10.3892/etm.2024.12516. eCollection 2024 May.	Original Article
70	Naoki Fujita, Shingo Hatakeyama, Masaki Momota, et al.	泌尿器科	Association between Aortic Calcification Burden and the Severity of Erectile Dysfunction in Men Undergoing Dialysis: A Cross-Sectional Study	World J Mens Health. 2023 Apr;41(2):373-381. doi: 10.5534/wjmh.210230. Epub 2022 May 25.	Original Article
71	Hikari Miura, Shingo Hatakeyama, Toshikazu Tanaka, et al.	泌尿器科	Oncological and functional outcomes of female reproductive organ-sparing radical cystectomy and ileal neobladder construction	Urol Oncol. 2023 May;41(5):254.e17-254.e24. doi: 10.1016/j.urolonc.2022.11.018. Epub 2022 Dec 10.	Original Article
72	Naoki Fujita, Mizuri Ishida, Takuro Iwane, et al.	泌尿器科	Association between Advanced Glycation End-Products, Carotenoids, and Severe Erectile Dysfunction	World J Mens Health. 2023 Jul;41(3):701-711. doi: 10.5534/wjmh.220154. Epub 2023 Jan 3.	Original Article
73	Naoki Fujita, Masaki Momota, Yusuke Ozaki, et al.	泌尿器科	Can Erectile Dysfunction Severity Predict Major Adverse Cardiovascular Events in Men Undergoing Dialysis? A Prospective Cohort Study	World J Mens Health. 2023 Oct;41(4):900-908. doi: 10.5534/wjmh.220179. Epub 2023 Jan 19.	Original Article
74	Ishii N, Hatakeyama S, Miura H, et al.	泌尿器科	Trends in the age of hospitalized patients with urological cancers: A 17-year experience	Int J Urol. 2023 Jul;30(7):572-578. doi: 10.1111/iju.15180. Epub 2023 Mar 20.	Original Article
75	Okuyama Y, Hatakeyama S, Tabata R, et al.	泌尿器科	Impact of nephroureterectomy on postoperative renal function in upper tract urothelial carcinoma: A multicenter retrospective study	Int J Urol. 2023 Aug;30(8):649-657. doi: 10.1111/iju.15192. Epub 2023 May 2.	Original Article
76	Tomoko Hamaya, Shingo Hatakeyama, Tohru Yoneyama, et al.	泌尿器科	Humoral response to SARS-CoV-2 mRNA vaccine in ABO blood type incompatible kidney transplant recipients treated with low-dose rituximab	Sci Rep. 2023 Sep 12;13(1):15098. doi: 10.1038/s41598-023-42406-5.	Original Article
77	Tepppei Okamoto, Shingo Hatakeyama, Tomoko Hamaya, et al.	泌尿器科	Impact of timing of rejection episode on cardiovascular events in living donor kidney transplantation: a multicenter retrospective study	J Nephrol. 2023 Dec;36(9):2613-2620. doi: 10.1007/s40620-023-01811-9. Epub 2023 Nov 8.	Original Article
78	Kazuyuki Mori, Shingo Hatakeyama, Hideki Enokida, et al.	泌尿器科	Summary of the Clinical Practice Guidelines for Upper Tract Urothelial Carcinoma 2023 by the Japanese Urological Association	Int J Urol. 2024 Mar;31(3):194-207. doi: 10.1111/iju.15362. Epub 2023 Dec 19.	Review
79	Naoki Fujita, Shingo Hatakeyama, Ryuji Tabata, et al.	泌尿器科	Real-world effects of novel androgen receptor axis-targeted agents on oncological outcomes in non-metastatic castration-resistant prostate cancer: A multi-institutional retrospective study	Prostate Int. 2024 Mar;12(1):46-51. doi: 10.1016/j.pnrl.2023.12.002. Epub 2023 Dec 19.	Original Article
80	Kogawa S, Suzuki Y, Furukawa A, Kurosaka N, Nozaki N, Ueno S.	眼科	Bilateral simultaneous endophthalmitis after immediately sequential bilateral cataract surgery	Am J Ophthalmol Case Rep. 2023 Jul 13;32:101886. doi: 10.1016/j.ajoc.2023.101886. eCollection 2023 Dec.	Case report
81	Midorikawa S, Mizukami H, Kudoh K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Diabetes can increase the prevalence of EBV infection and worsen the prognosis of nasopharyngeal carcinoma	Pathology. 2024 Feb;56(1):65-74. doi: 10.1016/j.pathol.2023.09.013. Epub 2023 Nov 21.	Original Article
82	Hatayama Y, Kudo S, Ota R, et al.	放射線治療科	Investigation of the efficacy of the change ratio of brain natriuretic peptide for predicting the cardiac effects of chemoradiotherapy on esophageal cancer	Oncol Lett. 2023 Aug 23;26(4):439. doi: 10.3892/ol.2023.14026. eCollection 2023 Oct.	Original Article
83	Hirose K, Sato M, Ichise K, et al.	放射線治療科	Dose Rate Effect on Cell Survival in BNCT	Curr Issues Mol Biol. 2023 Aug 23;45(9):6986-6994. doi: 10.3390/cimb45090441.	Original Article
84	Sato M, Hirose K, Takeno S, et al.	放射線治療科	Safety of Boron Neutron Capture Therapy with Borofalan(10)B and Its Efficacy on Recurrent Head and Neck Cancer: Real-World Outcomes from Nationwide Post-Marketing Surveillance	Cancers (Basel). 2024 Feb 21;16(5):869. doi: 10.3390/cancers16050869.	Original Article

85	Tanaka M, Hatayama Y, Kawaguchi H, et al.	放射線治療科	Long-Term Survival of a Patient With Anaplastic Thyroid Carcinoma Treated With Hypofractionated Radiotherapy: A Case Report	Cureus. 2024 Mar 22;16(3):e56689. doi: 10.7759/cureus.56689. eCollection 2024 Mar.	Case report
86	Ryuto Tsushima, Kaorino, Shuang Song, et al.	産科婦人科	Chorioamnionitis and maternal sepsis caused by AmpC $\beta$ -lactamase-producing <i>Escherichia coli</i> infection: A case report	Int J Surg Case Rep. 2023 Oct;111:108781. doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108781. Epub 2023 Sep 4.	Case report
87	Tsuda H, Momomura M, Ito Y M, et al.	産科婦人科	Relationship between the endometrial thickness and the years since menopause	日本女性医学学会雑誌	Original Article
88	Hirota K.	麻酔科・集中治療科	Remimazolam: a new string to the TIVA bow	J Anesth. 2023 Jun;37(3):335-339. doi: 10.1007/s00540-023-03186-4. Epub 2023 Apr 20.	Review
89	Hirai N, Kinoshita H, Kitayama M, et al.	麻酔科・集中治療科	Anesthetic management of external iliac artery transection in a morbidly obese patient with Klippel-Trenaunay-Weber syndrome: a case report	JA Clin Rep. 2023 Apr 13;9(1):18. doi: 10.1186/s40981-023-00609-9.	Case report
90	Saito J, Zao H, Wu L, et al.	麻酔科・集中治療科	"Anti-cancer" effect of ketamine in comparison with MK801 on neuroglioma and lung cancer cells	Eur J Pharmacol. 2023 Apr 15;945:175580. doi: 10.1016/j.ejphar.2023.175580. Epub 2023 Feb 8.	Original Article
91	Uchida S, Takekawa D, Kato K, et al.	麻酔科・集中治療科	Acute coronary syndrome due to left main coronary trunk compression 2 months after left atrial auricle clipping: a case report	JA Clin Rep. 2023 Jul 13;9(1):42. doi: 10.1186/s40981-023-00634-8.	Case report
92	Kinoshita H, Saito J, Kushikata T, et al.	麻酔科・集中治療科	The Perioperative Frontal Relative Ratio of the Alpha Power of Electroencephalography for Predicting Postoperative Delirium After Highly Invasive Surgery: A Prospective Observational Study	Anesth Analg. 2023 Dec 1;137(6):1279-1288. doi: 10.1213/ANE.0000000000006424. Epub 2023 Mar 14.	Original Article
93	Hirai N, Saito J, Nakai K, et al.	麻酔科・集中治療科	Association between regional oxygen saturation and central venous saturation in pediatric patients undergoing cardiac surgery: A prospective observational study	Paediatr Anaesth. 2023 Nov;33(11):913-922. doi: 10.1111/pan.14741. Epub 2023 Aug 3.	Original Article
94	Morita H, Kinoshita H, Kitayama M, et al.	麻酔科・集中治療科	Remimazolam and Remifentanyl Anesthetics for an Adolescent Patient with Stiff-Person Syndrome: A Case Report	A A Pract. 2024 Feb 19;18(2):e01758. doi: 10.1213/XAA.0000000000001758. eCollection 2024 Feb 1.	Case report
95	Kato K, Kinoshita H, Kumagai G, et al.	麻酔科・集中治療科	Association between preoperative neutrophil-lymphocyte ratio, uric acid, and postoperative delirium in elderly patients undergoing degenerative spine surgery	J Anesth. 2024 Feb;38(1):35-43. doi: 10.1007/s00540-023-03273-6. Epub 2023 Oct 29.	Original Article
96	Kinoshita H, Kato K, Yamazaki Y, et al.	麻酔科・集中治療科	Successful Fluid Management in Respiratory Failure due to Clazosentan Following a Cerebral Aneurysm Clipping: A Case Report	Cureus. 2024 Feb 25;16(2):e54850. doi: 10.7759/cureus.54850. eCollection 2024 Feb.	Case report
97	Saito A.	脳神経外科	The Phenomenon of Hematocephalus: A Comprehensive Review of the Literature	JMA J. 2023 Apr 14;6(2):128. doi: 10.31662/jmaj.2023-0039. Epub 2023 Apr 7.	Original Article
98	Watanabe R, Ueno K, Nomura Y, et al.	脳神経外科	Verification of a Three-day Hospitalization Protocol for Chronic Subdural Hematoma Surgery	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Aug 15;63(8):375-379. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0344. Epub 2023 Jun 28.	Original Article
99	Ueno K, Katayama K, Mizukami A, et al.	脳神経外科	Spontaneous remission of skull Langerhans cell histiocytosis that had developed by repeated head injury: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2023 Aug 21;6(8):CASE2327. doi: 10.3171/CASE2327. Print 2023 Aug 21.	Original Article
100	Maita H, Kobayashi T, Akimoto T, et al.	総合診療部	Factors Affecting Outcomes of Poor-Grade Subarachnoid Hemorrhage	World Neurosurg. 2024 May;185:e516-e522. doi: 10.1016/j.wneu.2024.02.064. Epub 2024 Feb 19.	Case report
101	Akimoto T, Kobayashi T, Maita H, et al.	総合診療部	Tele-education by an orthopedic specialist increased the confidence in orthopedics of a general practitioner at a rural solo-practice clinic	J Rural Med. 2024 Jan;19(1):40-43. doi: 10.2185/jrm.2023-025. Epub 2024 Jan 1.	Original Article
102	Osawa H, Nakamura N, Tsutaya C, et al.	総合診療部	Role of High-sensitivity C-reactive Protein in Future Cardiovascular Events in Hemodialysis Patients	In Vivo. 2024 May-Jun;38(3):1351-1358. doi: 10.21873/invivo.13575.	Original Article
103	Akimoto T, Kobayashi T, Maita H, et al.	総合診療部	Hashimoto's thyroiditis with macro-CPK type 1 but without subjective symptoms.	Journal of Hospital General Medicine. 5(3) : 67-70	Case report
104	Ichiyama S, Soma S, Ito K.	高度救命救急センター	Community-Acquired Severe <i>Clostridium difficile</i> Enteritis Complicated by Metabolic Acidosis and Acute Kidney Injury	Cureus. 2023 Jul 13;15(7):e41804. doi: 10.7759/cureus.41804. eCollection 2023 Jul.	Case report
105	Ichiyama S, Nomura O, Ishizawa Y.	高度救命救急センター	Disruption of the internal jugular vein by subcutaneous emphysema	BMJ Case Rep. 2023 Dec 30;16(12):e253066. doi: 10.1136/bcr-2022-253066.	Case report
106	Ichiyama S, Ishizawa Y, Washida K, et al.	高度救命救急センター	Gastric Artery Injury Due to Blunt Abdominal Trauma	Cureus. 2023 Dec 6;15(12):e50018. doi: 10.7759/cureus.50018. eCollection 2023 Dec.	Case report
107	Sugiyama K, Nomura O, Irie J, et al.	高度救命救急センター	Effects of rewarming therapies on outcomes in accidental hypothermia: A secondary analysis of a multicenter prospective study.	The American Journal of Emergency Medicine 79: 91-96 (2024).	Original Article
108	Fukuta T, Nakayama H, Hasegawa S, et al.	高度救命救急センター	Veno-Venous Extracorporeal Membrane Oxygenation For An Acute Type-B Aortic Dissection Compromised With Acute Respiratory Distress Syndrome A Case Report.	Journal of Case Reports: Clinical & Medical 6: (1) 170 (2023).	Case report
109	Nishijima H, Tomiyama M.	脳神経内科	GABA storage and release from direct pathway neurons account for the enhanced short-duration response of L-dopa in Parkinson's disease	J Neurol Sci. 2024 Jan 15;456:122844. doi: 10.1016/j.jns.2023.122844. Epub 2023 Dec 18.	Letter
110	Miura M, Nishijima H, Suzuki C, et al.	脳神経内科	Late-onset 5,10-methylenetetrahydrofolate reductase deficiency with subacute disturbance of consciousness	Pediatr Int. 2024 Jan-Dec;66(1):e15720. doi: 10.1111/ped.15720.	Case report
111	Nakamura T, Nishijima H, Mori F, et al.	脳神経内科	Axon terminal hypertrophy of striatal projection neurons with levodopa-induced dyskinesia priming	Front Neurosci 17: 1169336. doi: 10.3389/fnins.2023.1169336	Original Article
112	Nishijima H, Nakamura T, Tomiyama M	脳神経内科	Morphological and Functional Changes of Striatal Neurons with L-dopa-induced Dyskinesia	Neurol Clin Neurosci 11: 181-188, 2023. doi: 10.1111/ncn3.12562	Review

113	Nakamura Y, Okumura F, Nihei M, et al.	呼吸器内科、感染症科	Granulomatosis with Polyangiitis following COVID-19 in an Adolescent	Intern Med. 2023;62(4):589-593. doi: 10.2169/internalmedicine.1109-22. Epub 2023 Feb 15.	Case report
114	Makiguchi T, Tanaka H, Okudera K, et al.	呼吸器内科、感染症科	Safety and feasibility of carboplatin and paclitaxel in combination with nintedanib for non-small cell lung cancer patients with idiopathic pulmonary fibrosis: a prospective pilot study	Transl Lung Cancer Res. 2023 Apr 28;12(4):719-726. doi: 10.21037/tlcr-22-699. Epub 2023 Apr 3.	Original Article
115	Itoya M, Ishioka Y, Makiguchi T, et al.	呼吸器内科、感染症科	Role of G-protein-coupled estrogen receptor in the pathogenesis of chronic asthma	Immunol Lett. 2024 Feb;265:10-22. doi: 10.1016/j.imlet.2023.12.001. Epub 2023 Dec 22. Erratum in: Immunol Lett. 2024 Jun;267:106868. doi: 10.1016/j.imlet.2024.106868.	Original Article
116	Akita T, Ariyasu R, Kakuto S, et al.	呼吸器内科、感染症科	Distinction of ALK fusion gene- and EGFR mutation-positive lung cancer with tumor markers	Thorac Cancer. 2024 Apr;15(10):788-796. doi: 10.1111/1759-7714.15268. Epub 2024 Feb 24.	Original Article
117	Kobori Y, Tachizaki M, Imaizumi T, et al.	呼吸器内科、感染症科	TMEM2 suppresses TLR3-mediated IFN- $\beta$ /ISG56/CXCL10 expression in BEAS-2B bronchial epithelial cells.	Mol Biol Rep. 2024 Mar 14;51(1):417. doi: 10.1007/s11033-024-09346-3.	Original Article
118	Tatsuo S, Tatsuo S, Tsushima F, et al.	放射線診断科	Association of prediabetes with reduced brain volume in a general elderly Japanese population	Eur Radiol. 2023 Aug;33(8):5378-5384. doi: 10.1007/s00330-023-09509-z. Epub 2023 Mar 9.	Original Article
119	Kasai S, Watanabe K, Umemura Y, et al.	放射線診断科	Altered structural hippocampal intra-networks in a general elderly Japanese population with mild cognitive impairment	Sci Rep. 2023 Aug 16;13(1):13330. doi: 10.1038/s41598-023-39569-6.	Original Article
120	Umemura Y, Watanabe K, Kasai S, et al.	放射線診断科	Choroid plexus enlargement in mild cognitive impairment on MRI: a large cohort study	Eur Radiol. 2024 Jan 15. doi: 10.1007/s00330-023-10572-9. Online ahead of print.	Original Article
121	Kasai S, Watanabe K, Ide S, et al.	放射線診断科	FLAIR Hyperintensities in the Anterior Part of the Callosal Splenium in the Elderly Population: A Large Cohort Study	Acad Radiol. 2024 Feb 26:S1076-6332(24)00072-2. doi: 10.1016/j.acra.2024.02.001. Online ahead of print.	Original Article
122	Nakagawa J, Kinjo T, Aiuchi N, et al.	薬剤部	Associations among Plasma Concentrations of Edoxaban and M-4, Prothrombin Time, and the SLC01B1*15 Haplotype in Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation	Ther Drug Monit. 2023 Jun 1;45(3):409-416. doi: 10.1097/FTD.0000000000001042.	Original Article
123	Nakagawa J, Kinjo T, Aiuchi N, et al.	薬剤部	Effect of pregnane X receptor and cytochrome P450 oxidoreductase gene polymorphisms on trough concentrations of rivaroxaban and edoxaban in patients with nonvalvular atrial fibrillation	Eur J Clin Pharmacol. 2023 May;79(5):703-705. doi: 10.1007/s00228-023-03483-7. Epub 2023 Mar 23.	Letter
124	Nakagawa J, Takahata T, Chen Y, et al.	薬剤部	Influence of CYP3A5 and ABCB1 polymorphisms on the pharmacokinetics of vincristine in adult patients receiving CHOP therapy	Cancer Chemother Pharmacol. 2023 Nov;92(5):391-398. doi: 10.1007/s00280-023-04580-1. Epub 2023 Aug 23.	Original Article
125	Saito N, Tsuchiya J, Itoga M, et al.	感染制御センター	Multiple Blood Culture Sampling, Proper Antimicrobial Choice, and Adequate Dose in Definitive Therapy Supported by the Antimicrobial Stewardship Team Could Decrease 30-Day Sepsis Mortality Rates	Infect Drug Resist. 2024 Jan 22;17:207-219. doi: 10.2147/IDR.S445917. eCollection 2024.	Original Article

計125件

- 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上を発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。  
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、倫理審査申請から審査結果までの流れなど。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 8 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、委員会構成など。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 0 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究法と倫理指針についてなど。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

弘前大学医学部附属病院の専門医養成研修プログラムは、将来その分野の先端を担う人間性豊かな良医の育成と科学的な思考能力の涵養、最先端の医療技術の習得を目標としている。そのために、大学病院ならではの症例等の豊富さ、経験豊かな先輩医師、診療科を超えた総合的診療体制、大学院在籍中でも研修可能など多くのメリットを活用して、若き医師の学位、各領域認定医・専門医の資格取得などキャリアアップを支援する体制を整えている。

平成 30 年 4 月から新専門医制度による専門研修を開始しており、当院の専門研修プログラムは、以下 19 基本領域全てを整備している。

内科、精神科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、救急科、臨床検査、病理、総合診療

また、従来から、以下の各学会の公認する専門医養成施設となっている。

日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本整形外科学会、日本泌尿器科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本病理学会、日本救急医学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本腎臓学会、日本肝臓学会、日本アレルギー学会、日本老年医学会、日本神経学会、日本消化器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構、日本小児外科学会、日本心身医学会、日本リウマチ学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本周産期・新生児医学会、日本超音波医学会、日本核医学会、日本集中治療医学会、日本輸血・細胞治療学会、日本透析医学会、日本臨床腫瘍学会、日本ペインクリニック学会、日本脳卒中学会、日本肝胆膵外科学会、日本乳癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本高血圧学会、日本手外科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本がん治療認定医機構・日本がん治療認定医機構（歯科口腔外科）、日本心療内科学会、日本熱傷学会、日本臨床細胞学会、日本緩和医療学会、日本頭頸部外科学会、日本インターベンショナルラジオロジー学会、日本認知症学会、日本小児循環器学会、日本生殖医学会、日本胆道学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本小児血液・がん学会、日本心臓血管麻酔学会、日本不整脈心電学会、日本感染症学会、日本脈管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本消化管学会、日本炎症腸疾患学会、日本産科婦人科内視鏡学会、日本内分泌外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本小児神経学会、日本女性医学学会、日本食道学会、日本脊椎脊髄病学会、日本東洋医学会、日本呼吸療法医学会、日本臨床神経生理学学会、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医制度委員会、日本膵臓学会、日本血栓止血学会、日本腹部救急医学会、日本成人先天性心疾患学会、日本口腔外科学会、日本小児口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会、日本顎関節学会

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師

に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	366.25 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
櫻庭 裕丈	消化器内科、血液内科、免疫内科	教授	25年	
富田 泰史	循環器内科、腎臓内科	教授	26年	
田坂 定智	呼吸器内科、感染症科	教授	33年	
藤田 征弘	内分泌内科、糖尿病代謝内科	教授	31年	
富山 誠彦	脳神経内科	教授	38年	
佐藤 温	腫瘍内科	教授	36年	
中村 和彦	神経科精神科	教授	34年	
照井 君典	小児科	教授	32年	
皆川 正仁	呼吸器外科、心臓血管外科	教授	28年	
袴田 健一	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	教授	39年	
袴田 健一	小児外科	教授	39年	
石橋 恭之	整形外科	教授	37年	
赤坂 英二郎	皮膚科	教授	21年	
畠山 真吾	泌尿器科	教授	24年	
上野 真治	眼科	教授	26年	
松原 篤	耳鼻咽喉科頭頸部外科	教授	37年	
青木 昌彦	放射線治療科	教授	35年	
掛田 伸吾	放射線診断科	教授	28年	
横山 良仁	産科婦人科	教授	36年	
櫛方 哲也	麻酔科・集中治療科	准教授	35年	
斉藤 敦志	脳神経外科	教授	26年	
漆館 聡志	形成外科	教授	29年	
花田 裕之	救急科	教授	39年	
津田 英一	リハビリテーション科	教授	34年	
齋藤 紀先	検査部	准教授	27年	
黒瀬 顕	病理診断科	教授	37年	
米田 博輝	総合診療部	准教授	25年	
小林 恒	歯科口腔外科	教授	37年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 医療機器に係る安全管理</li><li>・研修の期間・実施回数 令和5年6月8日～令和5年7月31日(eラーニング)</li><li>・研修の参加人数 88名</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病 院 長 袴 田 健 一
管理担当者氏名	事 務 部 長 中 野 公 雄

		保 管 場 所	管 理 方 法		
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病歴部 医療情報部 薬剤部 放射線部	概ね電子データで管理。処方せん、持参フィルム等一部の記録は、原本を中央カルテ室で保管。 紙診療記録については、診療記録管理規程により、病院外への持ち出しを禁止している。 医療情報パソコン及びローカル保存データは、情報管理システム運用管理規程の定めにより、システム管理者の許可を得て、病院外への持ち出しが可能なこととなっている。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	概ね電子データで管理	
		高度の医療の提供の実績	経営企画課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課		
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	ファイル形式(紙媒体)
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況			
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	ファイル形式(紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況				
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況				

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合患者支援センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全推進室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ②. 現状
閲覧責任者氏名	弘前大学長 福田 眞作
閲覧担当者氏名	弘前大学医学部附属病院 事務部長 中野 公雄
閲覧の求めに応じる場所	弘前大学情報公開室(弘前大学事務局棟1階)
閲覧の手続の概要  国立大学法人弘前大学情報公開取扱規程に基づき、閲覧要求に応じる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>② 医療安全管理のための組織体制</li> <li>③ 院内報告体制</li> <li>④ 安全な医療を提供するための職員研修</li> <li>⑤ 安全確保を目的とした改善のための要点</li> <li>⑥ 医療事故発生時の対応</li> <li>⑦ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>⑧ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>⑨ その他医療安全推進の要点</li> </ul>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討</li> <li>② 医療事故防止マニュアルの作成</li> <li>③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施</li> <li>④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析</li> <li>⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知</li> <li>⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し</li> <li>⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策</li> <li>⑧ 医療法第 6 条の 10 の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「医療安全ハンドブック説明会」（e ラーニング）</li> <li>② 「第 2 回医療安全研修会」（e ラーニング）</li> <li>③ BLS 部署別講習会・エピペン注射液実技講習会（指導者講習会含む）</li> <li>④ 不眠症診療 Web セミナー ～安全な入院体制確立を目指した不眠治療の在り方～</li> <li>⑤ 安全な輸血業務・輸血治療のポイント</li> </ul>	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故発生時、安全管理委員会への報告</li> <li>② 医療事故の事例収集・分析により、院内での問題点を把握し、改善策の企画立案及び評価の上、情報を共有</li> <li>③ 重大な医療事故発生時の管理者への報告</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療関連感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>② 感染管理の組織と役割</li> <li>③ 職員に対する医療関連感染対策に関わる研修</li> <li>④ サーベイランス</li> <li>⑤ 院内感染発生時の報告体制・アウトブレイク時の対応</li> <li>⑥ 医療関連感染対策のための指針閲覧に関すること</li> <li>⑦ その他医療関連感染対策の推進に関する基本的な考え方</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療関連感染防止対策の検討</li> <li>② 医療関連感染防止マニュアルの作成</li> <li>③ 医療関連感染防止の教育、研修の実施</li> <li>④ 院内感染発生時の周知体制</li> <li>⑤ 院内感染発生時の原因分析、改善策立案・実施、職員への周知</li> <li>⑥ 委員会で立案された改善策の実施状況の調査・見直し</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「医療安全ハンドブック説明会」（eラーニング）（集合研修）</li> <li>② 感染対策研修会 「標準予防策」（eラーニング）（集合研修）</li> <li>③ 青森県抗菌化学療法セミナー 「抗菌薬適正使用の基本」（eラーニング）</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 院内感染の発生状況を把握するため、院内での感染症の発生動向の情報を共有。</li> <li>② 重大な院内感染発生時、地域の専門家等に相談が行われる体制を確保。</li> <li>③ 「新型インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症等発生時における診療継続計画」に即した院内感染対策マニュアルを整備。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 医療安全ハンドブック説明会 「検査・手術前に中止すべき薬剤」（e-ラーニング、集合研修）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>① 医薬品採用・購入</li> <li>② 医薬品の管理全般</li> <li>③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること</li> <li>④ 患者に対する与薬や服薬指導に関すること</li> <li>⑤ 医薬品情報の収集・管理・提供</li> <li>⑥ 他施設との連携</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケナコルトA筋注用（硝子体手術時における硝子体の可視化；マキュエイド®眼注用の流通停止に伴う措置）</li> <li>・ diphenylcyclopropanone（円形脱毛症の局所免疫療法）</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>① 薬剤部内ミーティングにおいて、各部門担当者より、処方せん疑義照会内容、ヒヤリハット事例、禁忌・適応外使用状況、インシデント事例、薬学的介入事例などの報告があり、全体に周知が図られている。</li> <li>② 月1回、病棟・外来常備薬の定数・使用期限チェックを実施している（向精神薬・毒薬も含む）。</li> <li>③ 調剤支援システム「PORIMS」を活用し、PTPヒートのバーコードを読み込ませることにより薬剤の取り間違い防止対策を実施している。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 32 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 医療機器の有効性・安全性                  ② 医療機器の使用手法                  ③ 医療機器の保守点検                  ④ 医療機器不具合発生時等の対応                  ⑤ 医療機器使用に関して特に法令上遵守すべき事項                  ⑥ 医療機器の新規導入時研修</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>放射線部門：①毎日の始業点検と終業点検、②定期保守点検(放射線治療機器、MRI装置、CT装置、血管撮影装置)、③消耗部品の耐久時間・過去の故障実績を鑑みたスポット点検、④故障時の修理・部品交換に合わせた点検                  臨床工学部門：年間点検計画に基づき、定期点検又始業点検、動作中点検を行い、安全点検システムMARISで一括管理をしている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冠動脈瘤塞栓のためのアボット社AMZERバスキュラープラグII</li> <li>・アルコン眼科用焼灼器</li> <li>・フォガティーカーテテル</li> <li>・Fisher&amp;Paykel社製 Optiflow Junior 2</li> <li>・細径フォガティーカーテテル 3もしくは4Fr</li> </ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 添付文書等の管理                  ② 医療機器に係る安全性情報等の収集                  ③ 病院管理者への報告</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者が医療安全管理委員会の委員長となっている。委員会では、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者による報告が行われている</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有 ( 2名 ) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【収集方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品・医療機器等安全情報 (PMDA よりメール)</li> <li>・ 医療安全情報 (日本医療機能評価機構よりメール)</li> <li>・ 注意喚起文書 (日病薬 HP)</li> <li>・ 医薬品安全情報 (製薬メーカー、医薬品販売業者) 等・緊急安全性情報発出時には、薬剤システム (湯山製作所) を用いて使用患者を特定</li> </ul> <p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急安全性情報は即時に全診療部門、全病棟、使用医師に印刷物を配布 (医療情報端末 Web にも掲載)</li> <li>・ 安全性速報は全診療部門、全病棟に印刷物を配布 (医療情報端末 Web にも掲載)</li> <li>・ 薬剤部医薬品情報室から定期的に発行している Drug Information に掲載</li> </ul> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器を用いた医療実施申請書の確認により把握</li> <li>・ 各病棟担当者が当該医師に提出を依頼する「適応外使用薬剤報告書 (禁忌薬剤も含む)」により把握</li> </ul> </li> <li>② リスクの検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器等評価部門での検討</li> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器等評価委員会への審査依頼</li> <li>・ 医学科倫理委員会への審査依頼 (必要時)</li> <li>・ 薬剤部ミーティングで検討</li> </ul> </li> <li>③ 妥当性等の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未承認新規医薬品医療機器を用いた医療審査結果通知書の結果通知で確認</li> <li>・ 薬剤部ミーティングで確認</li> </ul> </li> <li>④ 処方した医師等に対し処方変更等の提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調剤・製剤担当者による疑義照会</li> <li>・ 各病棟担当者からの主治医へ伝達</li> </ul> </li> <li>⑤ 医薬品安全管理責任者への報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副薬剤部長および薬剤部医薬品情報担当者 (DI 主任) が報告</li> </ul> </li> </ol> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無</p> <p>・ 担当者の所属・職種：  (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 (医薬品情報主任))  (所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④ 有・無

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：  <p style="margin-left: 2em;">インフォームド・コンセント実施責任者は、インフォームド・コンセントの構成の遵守状況を定期的に確認し、必要な指導を行うとともに、共有すべき事例を周知又は研修で取り上げるなど情報の共有を行う。</p> </li> </ul>
--

<b>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</b>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：  <p style="margin-left: 2em;">院内規程に基づきカルテ記載状況等の点検を行い、その結果を各診療科へフィードバックするとともに院内会議にて講評する。</p> </li> </ul>	
<b>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</b>	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従 (4) 名、専任 (0) 名、兼任 (1) 名  うち医師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (1) 名  うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 (0) 名、兼任 (0) 名  うち看護師：専従 (2) 名、専任 (0) 名、兼任 (0) 名</li> <li>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること  <p style="margin-left: 2em;">※所属職員は、有資格者であり、医療安全に関する必要な知識の修得のための研修等を受講しており、医療安全管理委員会の構成員となっている。</p> </li> <li>・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故の防止及び安全管理推進に係る診療科、中央診療施設等並びに病院内各部署への指導、監督</li> <li>② 診療科等が提出する患者に係る死亡報告書に基づく、病院長への報告</li> <li>③ アクシデント、インシデント及び死亡事例についての調査、情報収集、報告の集計及び分析</li> <li>④ インフォームド・コンセントの適切な実施</li> <li>⑤ 事故、その他の医療安全推進室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録、その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施、その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく院内に勤務する者への必要な指導</li> <li>⑥ 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認</li> <li>⑦ その他リスクマネジメントに関すること。</li> </ol> </li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
<b>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況</b>	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件）、及び許可件数（ 6 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）
- ・活動の主な内容：
  - ① 高難度新規医療技術実施申請の内容確認及び評価委員会実施
  - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること
  - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること
  - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 13 件）、及び許可件数（ 13 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）
- ・活動の主な内容：
  - ① 未承認新規医薬品等を用いた医療実施申請の内容確認及び評価委員会実施
  - ② 評価委員会の審議結果を申請診療科長等に通知し、病院長へ報告すること
  - ③ 定期的及び術後に患者が死亡した場合等に、手術記録、診療録等の確認、法令及び当院要項等の遵守状況の確認をし、病院長へ報告すること
  - ④ 委員会での審査資料、議事概要及び法令・要項等の遵守状況の確認の記録の保管（審査又は確認の日から少なくとも5年間）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有 ・ 無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（  有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 309 件</li> <li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 82 件</li> <li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療事故予防・防止に関する情報収集及び対策の検討</li> <li>② 医療事故防止マニュアルの作成</li> <li>③ 医療事故予防・防止の教育、研修の企画、立案及び実施</li> <li>④ 医療事故が発生した場合における速やかな原因究明のための調査・報告及び分析</li> <li>⑤ 医療事故の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び院内に勤務する者への周知</li> <li>⑥ 医療事故の改善のための方策の実施状況の調査、及び必要に応じた当該方策の見直し</li> <li>⑦ 医事紛争の予防・防止及びその対策</li> <li>⑧ 医療法第 6 条の 10 の規定に定められている医療事故（当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの）が疑われる事例の検証</li> </ul> </li> </ul>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>（病院名：新潟医歯学総合病院）・無）</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>（病院名：滋賀医科大学）・無）</li> <li>・技術的助言の実施状況</li> </ul> <p>【タスク・シフト/シェアについて】</p> <p>弘前大学医学部附属病院医療勤務環境改善検討委員会の委員として、医療安全推進室長をメンバーとして選出した。</p> <p>【高難度新規医療技術について】</p> <p>多職種によるモニタリングを実施している。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況</li> </ul> <p>総合患者支援センター内に、患者からの相談及び苦情全般に対応する部門を設置している。</p>
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施状況</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 5 年 5 月 9 日～令和 6 年 3 月 25 日 「医療安全ハンドブック説明会」（e ラーニング）</li> <li>2. 令和 5 年 7 月 3 日～令和 6 年 3 月 25 日</li> </ol>

「第2回医療安全研修会」(eラーニング)

3. 令和5年5月10日～令和6年3月25日  
BLS 部署別講習会・エピペン注射液実技講習会(指導者講習会含む)
4. 令和5年7月28日  
不眠症診療 Web セミナー ～安全な入院体制確立を目指した不眠治療の在り方～
5. 令和5年5月15日～令和6年3月25日 安全な輸血業務・輸血治療のポイント

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構主催の2023年度特定機能病院管理者研修を以下のとおり受講  
管理者:令和5年12月15日  
医療安全管理責任者:令和6年2月26日  
医薬品安全管理責任者:令和6年1月15日  
医療機器安全管理責任者:令和6年1月19日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

【実施年月日】令和6年2月13日～2月16日

【実施機関】日本品質保証機構の定期審査を受審した。

【審査結果】

「今回の更新審査では、適用規格[ISO 9001:2015]の中で改善指摘事項が発見されませんでした。登録されているマネジメントシステムについて、更新の推薦を致します。」との本審査結果の判定により、登録証は引き続き適切と判断された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査報告書を附属病院ホームページに掲載した。(令和6年3月27日)

・評価を踏まえ講じた措置

審査報告書を院内各部署へ送付し、共有を図った。

(注) 記載時点の状況を記載すること

## 規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<b>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>基準の主な内容</b>            国立大学法人弘前大学病院長の選考及び任期等に関する規程            第3条 病院長の資格は、本学の教授であつて、かつ、次に掲げる要件を満たす者とする。           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医師免許を有している者</li> <li>(2) 医療安全確保のための必要な資質及び能力を有している者</li> <li>(3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者</li> </ol>           2 学長は、前項に定める要件の具体的内容について、選考を開始する前までに病院長選考基準(以下「選考基準」という。)として定め、公表するものとする。         </li>   <li>・ <b>基準に係る内部規程の公表の有無</b> ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ <b>公表の方法</b>            大学及び附属病院HPに掲載。         </li> </ul>

## 規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ <b>公表の方法</b>            大学及び附属病院HPに掲載。         </li> </ul>				
<b>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</b>				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
若林 孝一	理事(企画担当)	○	医学部附属病院を含む本学の経営等を担当する理事として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
廣田 和美	医学研究科長		医学教育者の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
横山 良仁	医学部附属病院副 病院長(総務担当)		医学部附属病院において診療を担当する医師の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
井瀧 千恵子	医学部附属病院看護部長		医学部附属病院において業務を行う医療職員の代表として	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
岡井 眞	岡井公認会計士事務所所長		一般・患者の立場の者として	有 <input checked="" type="radio"/> 無
樋川 新一	(有)リングミュージック代表取締役		一般・患者の立場の者として	有 <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 弘前大学医学部附属病院運営会議：病院の運営方針、中期計画、予算及び決算 等</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 附属病院HP内の院内専用ページに掲載</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・(無)）</li> <li>・公表の方法 附属病院HP内の院内専用ページに掲載（外部からはアクセス不可）</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)）</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
袴田 健一	○	医師	病院長
田坂 定智		医師	副病院長
花田 裕之		医師	副病院長
横山 良仁		医師	副病院長
櫻庭 裕丈		医師	病院長補佐
掛田 伸吾		医師	病院長補佐
斉藤 敦志		医師	病院長補佐
玉井 佳子		医師	病院長補佐
漆館 聡志		医師	病院長補佐
青木 昌彦		医師	病院長補佐
新岡 丈典		薬剤師	病院長補佐・薬剤部長
井瀧 千恵子		看護師	病院長補佐・看護部長
小林 恒		歯科医師	歯科口腔外科科長
石山 雅大		臨床検査技師	医療技術部長
中野 公雄		事務職員	事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
大学HPに掲載
- ・ 規程の主な内容  
(人事等)  
国立大学法人弘前大学管理運営規則
  - ・ 病院長は、医学部附属病院を代表し、大学の方針に従い、医学部附属病院の管理運営をつかさどる。弘前大学医学部附属病院規程 他
  - ・ 副病院長、病院長補佐等執行役職員の推薦、指名、及び院内各部署等の長、院内各委員会委員の選考、指名、任命を行う。  
(契約等)  
国立大学法人弘前大学会計規則
  - ・ 予算責任者を部局の長と定める。（病院長が予算責任者。）国立大学法人弘前大学予算管理規程
  - ・ 附属病院を予算部局に定める。国立大学法人弘前大学会計機関等の事務及び職位等に関する規程
  - ・ 契約担当役（会計機関）として病院長を指定する。（附属病院を含む本町地区部局の所掌に係る契約を担当）
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
副病院長：病院長の職務を助ける  
(総務担当、臨床倫理担当、経営担当、危機管理・BCP担当、医療安全担当、働き方改革担当)  
病院長補佐：指定された事項を処理する  
(病院における教育・研修担当、地域医療担当、遠隔医療推進担当、国際課担当、接遇・ハラスメント担当、勤務環境改善担当、患者サービス向上担当、研究担当、看護担当)
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
令和6年10月開催の厚生労働省医政局医事課主催令和6年度トップマネジメント研修に病院長、副病院長又は病院長補佐の参加を予定。



規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全推進室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務について医学部附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じ、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>③ ①又は②に掲げる業務について、その結果を公表すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：附属病院HPに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬 悌	黒石市国民健康保険黒石病院 病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
板橋 幸弘	つがる西北五広域連合鱈ヶ沢病院院長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
長谷河 亜希子	弘前大学人文社会科学部 公共政策講座 教授		法律に関する識見を有する者	有・無	1
吉澤 篤	前弘前大学理事		医療を受ける者	有・無	2
田坂 定智	弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座 教授（副病院長）		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
櫻庭 裕丈	弘前大学大学院医学研究科消化器内科学講座 教授（病院長補佐）		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

- 国立大学法人弘前大学コンプライアンス基本規則を制定し、コンプライアンス委員会を設置。
- ・学内にコンプライアンス総括責任者（理事（総務担当））を委員長とする「コンプライアンス委員会」を組織し、定期的な委員会開催により法令遵守状況及び違反事項等の把握を行い、法令遵守の確保に努めている。
  - ・本学におけるコンプライアンス事案発生を防止する観点から、コンプライアンスの重要性に関する認識を高め、遵守すべき法令等に関する理解の増進及び周知徹底を図る目的で「コンプライアンス研修」をeラーニング形式で実施した。また、過去に実施したコンプライアンス研修資料に加え、コンプライアンス理解度テストをホームページ上に掲載し、未受講者に対する啓発に努めている。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

弘前大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

<p>開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況            病院の予算執行状況等、管理運営に関する重要事項について監督する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①役員会</li> <li>・ ②経営協議会</li> <li>・ ③法人内部監査（定期）</li> <li>・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））</li> </ul>           ①②病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重要事項について審議を行う。            ③④調査票による病院の管理運営や中期計画の進捗状況などの重点事項の確認、及び病院長等へのヒアリング。         </li> <li>・ 会議体の実施状況（年 31 回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①原則 月2回（8月を除く第1、3月曜日）</li> <li>・ ②原則 年4回（6、11、1、3月）</li> <li>・ ③④ 年1回</li> </ul> </li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）            （①年23回，②年7回，③④年1回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法            弘前大学HPに掲載</li> </ul>
--

<p>病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①役員会</li> <li>・ ②経営協議会</li> <li>・ ③法人内部監査（定期）</li> <li>・ ④監事監査（期末監事監査（監事ヒアリング））</li> </ul>
--

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
①役員会			
福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
若林 孝一	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
藤波 豊彦	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
岡崎 雅明	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
曾我 亨	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
橋本 恭男	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
佐野 輝男	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
②経営協議会			
福田 眞作	国立大学法人弘前大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
若林 孝一	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
藤波 豊彦	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
岡崎 雅明	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
曾我 亨	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
橋本 恭男	国立大学法人弘前大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無

袴田 健一	国立大学法人弘前大学		有・無
牛田 千里	国立大学法人弘前大学		有・無
今井 高志	株式会社日産サテオ弘前		有・無
岡井 眞	岡井公認会計士事務所		有・無
木村 宏	株式会社東奥日報		有・無
櫛引 利貞	カネショウ株式会社		有・無
九戸 眞樹	元弘前市教育委員会		有・無
小谷 知也	青森県副知事		有・無
須藤 慎治	株式会社みちのく銀行 株式会社プロクレアホールディングス		有・無
永澤 弘夫	弘前商工会議所		有・無
中林 弓子	中林裕雄法律事務所弁護士		有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
③法人内部監査			
加藤 惠吉	人文社会学部 教授	○	有・無
石川 隆二	農学生命科学部 教授		有・無
伊東 俊司	理工学研究科 教授		有・無
長谷川 公栄	財務部財務管理課 課長		有・無
三浦 尚子	研究推進部研究推進課 課長		有・無
工藤 慶伸	法人内部監査室 室長補佐		有・無
櫻庭 晋	法人内部監査室 専門職員		有・無

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
④監事監査			
中川 晃	国立大学法人弘前大学 監事		有・無
三上 友子	国立大学法人弘前大学 監事		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none"><li>・ 附属病院HPに掲載</li><li>・ 新採用者オリエンテーションで説明</li><li>・ 医療に係る安全管理等の研修で説明</li></ul></li></ul>